



歴史的橋梁と石積みが輝く汽車道の近景。ローブウェイは桜木町駅前とワールドポーターズ前を結ぶ（撮影／米山淳一）

横浜港の汽車道に架かる橋梁群

公益社団法人横浜歴史資産調査会社員
(ものづくり大学名誉教授)

増渕文男

日本の鉄道は150周年を迎えることができた。その間には高速鉄道の新幹線開発、そして数年後には世界に誇るリニア新幹線が開通することになっており、今や鉄道大国クラスに登り詰めた感がある。明治5(1872)年に新橋・横浜間の鉄道が開通、さらに明治22(1889)年には大阪まで延長し東海道線となり、その東海道線から分岐して、明治44(1911)年に横浜港の新港埠頭とを直結する臨港鉄道が建設された。最近、東京の高輪ゲートウェイ駅付近で鉄道創建時における臨港鉄道の築堤が埋立地から発見され話題になっているが、横浜港では海上に築堤した臨港鉄道の風景を容易に見ることが出来る。

みなとみらい地区から新港埠頭を結ぶ海上を通る鉄道廃線跡に遊歩道「汽車道」が平成9(1997)年に完成した。前述のような明治末期に造られた臨港鉄道を保全・活用したもので、蒼穹の下、紺碧の海を見ながら海面を歩くような爽快さを味わえる500mの歩行空間を提供し、横浜港の観光スポットとして人気を集めている。

この路線の最盛期には海外貿易用の貨物輸送のほかに、東京駅から「ポート・トレイン」と言う特別列車を横浜港駅まで45分で直通運転させていた。大正9(1920)年からのことで、この横浜港駅跡は新港埠頭内の公園にその一部が保存されており、昭和32(1957)年からは、山下公園にある高速貨客船「氷川丸」のシアトル航路にも接続する列車を運行させた。

この海を渡る汽車道は3橋梁と海上築堤があり、その橋梁は桜木町駅側から「旧臨港線港一号橋梁」「旧臨港線港二号橋梁」「旧臨港線港三号橋梁」の順に連なっている。

・港一号橋梁は30フィートの鉸桁橋2連と100フィートのトラス橋からなる。メインのトラス橋は明治42(1909)年に鉄道院が架設した

プラット形式の鋼トラス橋(米国系)で、トラス部材はアメリカン・ブリッジ製で平成25(2013)年に補修工事を行っている。

・港二号橋梁は鋼トラス橋のみで、港一号橋梁と同仕様になっている。橋長100フィートを換算すると約30.48mとなり、この半端な数値が意味するのは米国で量産されたトラス部材を輸入して、橋長に合わせて築堤位置を決めていた、現代とは全く異なる設計手法で当時の様子が窺える。

・港三号橋梁の創建時は30フィートの鉸桁橋が架かっており、この延命対策を検討している折り、旧・生糸検査所の大岡川河口に架かる英国系トラス橋が撤去されるので、ここに移設することにした。これは明治36(1903)年製の100フィートのポニーワーレントラス橋で、橋長が大きすぎたので、築堤を壊すことは出来ず、橋を短縮することにした。この件で皆様からご批判を受けたが米国系と英国系とを比較できるのは貴重で稀な存在と考えている。

この一帯は古トラス橋の博覧会場のようになっている。新港橋梁は臨港鉄道の延長上の大栈橋側に渡る場所にあり、大正元(1912)年に架けられた国産化された初期のポニーワーレントラス橋で、その他に瑞穂橋梁そして霞橋(旧江ヶ崎跨線橋)、浦舟人道橋(旧翁橋)などを観て、古き良き時代を味わって頂きたい。代わりに、この汽車道には街路樹が少ない。創建当時の汽車の煙による延焼防止のためであったが、昨今の猛暑が続くと日よけの植樹を考える時を迎えたのかも知れない。



今年の仕事 公益社団法人横浜歴史資産調査会 令和4年度事業計画

6月24日(水)に開催いたしました当公益社団の年次総会で令和4年度事業計画、収支計画が報告(令和3年度第2回理事会で承認済)されました。また、令和3年度事業報告並びに決算報告が承認されました。

特に令和4年度はモーガン邸の再建、旧湘南電鉄(現・京急電鉄)瀬戸変電所の修理と活用、野毛都橋商店街ビルの一層の活用に向けた事業を推進いたします。また、1872年(明治5)新橋—横浜に我が国初の鉄道が開業し150周年を迎えたのを機に、ロゴマークの作成、関連フォーラム、展示を横浜市都市整備局や全国近代化遺産活用連絡協議会(文化庁)、日本鉄道保存協会NPO法人観光文化研究所等と連携し開催いたします。会員の皆様のご支援、ご参加を心よりお願い申し上げます。(常務理事 米山淳一)

(1) 調査事業

〈横浜市都市整備局からの受託事業〉

① 歴史的建造物保全・活用計画関連調査

歴史的建造物を保全、活用するため歴史的建造物保全活用計画関連調査等を実施します。所有者へのヒアリング、文献調査、写真撮影、現地確認、地図へプロットなどを実施し、得られた知見を当公益社団の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり」の内容検討に活用し、具体的な歴史的建造物の保全・活用における方針の策定や横浜市登録、認定歴史的建造物に向けた課題を整理し、所見の作成等を行います。

〈自主事業〉

① 建築家J.H.モーガン自邸の再建に係る調査(藤沢市)

火災により焼損した建築家J.H.モーガン自邸の再建を目的に、令和3年度に当公益社団に設置した「旧モーガン邸再建委員会」を中心に、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市等と連携し、「復元再生調査報告書」(平成29年度実施)に基づいた再建に向けた調査等を継続し、「モーガン邸再建委員会」を継続します。

② 山手地区西洋館群等の保存対策調査(横浜市)

横浜市は横浜山手地区の西洋館を7軒所有し保存活用を行っていますが、個人が所有する西洋館に関しては、十分な保存対策が取られていないのが現状です。

これまで文化庁の補助を得て、伝統的建造物群保存対策調査、伝統的建造物群の見直し調査を行ってきましたが、具体的な保存対策は確立されていません。令和3年度に開催した山手市民、専門家等との懇談会を令和4年度も引き続き開催し、山手地区の保全に向けた体制づくり、保存活用のための枠組みを設けることを目的に調査委員会を設けます。

③ 西教寺の文化財指定や認定に向けた調査(横浜市)

昭和6年(1931)建造の鉄筋コンクリート造の本堂の現況調査や文献調査等を行ってきました。今年度も市指定文化財や横浜市認定歴史的建造物への可能性に向けた調査を継続します。



旧長濱検疫所一号停留所



焼損前のモーガン自邸玄関

④ 旧倉石忠雄家住宅の現況調査(長野県千曲市稲荷山・重要伝統的建造物群保存地区)

信州の絹文化の交流拠点としてまた、横浜との生糸交易で繁栄した稲荷山地区にある「旧倉石忠雄家住宅」は、生糸商、労働大臣や農林大臣を歴任された倉石忠雄氏の生家で伝統的建造物に指定されています。地元の千曲市文化財センターや稲荷山の町並みを守る会等と力を合わせ国指定重要文化財を目指し、復元や活用に向けた調査を継続します。

⑤ 横浜焼き・井上良斎窯場等の保全対策調査(横浜市南区南永田)

近代横浜の陶磁器産業に貢献した眞葛焼きと並び発展した横浜焼き。現在、登り窯や作業場、住居が当時のまま残り、所有者によって保存されています。湧水豊富な地形を利用した自然観察の場としても活用されています。将来にわたり、歴史的陶磁器産業の場と谷戸の自然地を併せ持った資産として保全する方策等を市民、行政、専門家と行います。

⑥ 谷戸家住宅の現況調査(横浜市磯子区滝頭)

磯子区滝頭に残る近代和風住宅に親子二代に亘って住み続けるための方策や、建物の地域の文化交流拠点としての可能性を探ります。

⑦ 旧長濱検疫所一号停留所の保存に向けた市民活動調査(横浜市金沢区長浜)

旧長濱検疫所一号停留所は、明治28年(1895)建造の登録有形文化財の木造建築です。隣接する厚生労働省施設のみなどみらい地区への移転計画にともない、この建物の保存に向けた方策を探るため市民団体と調査を行います。

⑧ 旧横浜ドリームランド「ホテルエンパイア」の現況調査(横浜市・戸塚区)

昭和39年(1964)に建設されたモダンな高層建築物は、戦後建築の華。保存の道をさぐります。

※④～⑧は「歴史を生かしたまちづくり相談室」にあがってきた案件の対象調査

⑨ 鉄道開業150周年 鉄道遺産現況調査(横浜市・神奈川県)

2022年10月14日で、新橋—横浜間に鉄道が開業して150周年を迎えます。この間の痕跡を近代化遺産・鉄道遺産として定め、横浜市内や神奈川県内の歴史的鉄道車両、駅舎、施設、橋梁、隧道等の調査を行い、約150件の鉄道遺産を報告書にまとめます。この調査は、令和2年度に当公益社団が設けた鉄道開業150周年記念事業委員会を中心に行います。

(2) 保護事業

〈自主事業〉

① 「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理

当公益社団の保護資産第1号である「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理を行います。特に横浜野毛商業協同組合と保全・管理に関する詳細な取り決めを作成し、将来に亘る円滑な保全・管理を推進します。

② 「旧湘南電鉄瀬戸変電所」の保存・活用

湘南電気鉄道創業時昭和5年(1930)の歴史的建造物である瀬

戸変電所の建物を、京浜急行電鉄(株)から寄贈を受けて保存・活用するために行った耐震・地盤調査(平成29年度・平成30年度)の結果に基づき、京浜急行電鉄、横浜市等と協議を重ねます。

令和2年度、令和3年度に行った建物の耐震調査や修理計画、さらに令和3年度に行った事業化の検証を基に、保存、活用、管理に関する実践的な仕組みを確立します。「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」を継続します。

④ **建築家J.H.モーガン自邸(藤沢市)の再建・保存・活用事業推進**
復元再生調査報告書(平成29年度実施)に基づきJ.H.モーガン自邸の再建事業を推進します。

公益財団法人日本ナショナルトラストから、焼失した建物と敷地約2,000坪の内の約3分の1の土地譲渡を受け、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市、藤沢商工会議所等と力を合わせ再建・活用資金確保のための募金活動を推進します。「旧モーガン邸再建委員会」を継続し、具体的な再建計画や保存、管理、活用計画を作成します。長年、管理、公開等を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と敷地の3分の2を所有する藤沢市との連携を強化します。

(3) 普及啓発事業

〈横浜市都市整備局からの受託事業〉

- ① 『歴史を生かしたまちづくり横濱新聞』第38号を発行
- ② 「第44回歴史を生かしたまちづくりセミナー」を開催

〈公益財団法人横浜市 緑の協会からの受託事業〉

- ① 俣野別邸、旧伊藤博文金沢別邸等の職員向け研修セミナー実施
- ② 俣野別邸、山手西洋館等において、市民向けの歴史講座やコンサート等開催

〈自主事業〉

- ① ヨコハマヘリテイジセミナーの開催

戦後建築を歴史・文化的視点から見つめ直し、「戦後建築の保存と活用」と題したセミナーを横浜市と力を合わせて開催します。

- ② コンサート in ヘリテイジ「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol. 9」の開催

「横浜山手芸術祭」の一環としてピアノコンサートを山手西洋館で開催します。

- ③ 「シルクロード・ネットワーク・神戸市フォーラム2022」の開催支援
シルクロード・ネットワーク協議会の代表幹事団体として、シルク産業で横浜に繁栄をもたらした関東甲信越、東北各地等の市町村と連携し、絹文化の啓発、保全、活用をテーマに、NPO法人街・建築・文化再生集団(略称RAC)等と連携して、神戸市にて開催する「シルクロード・ネットワーク・神戸市フォーラム2022」(総会、講演会、シンポジウム、見学会等)の支援をします。

*令和2年度開催予定を延期したものと

- ④ 「日本鉄道保存協会・横浜大会」の開催支援

日本鉄道保存協会の代表幹事団体として、近代化遺産である鉄道遺産(歴史的車両、施設、構造物等)を保存している自治体、鉄道事業者、NPO等の団体等と連携して横浜市で行う同協会の総会、講演会、シンポジウム、見学会等の開催を支援します。

- ⑤ 鉄道開業150周年記念事業委員会の開催

鉄道開業150周年記念事業を日本鉄道保存協会と協働で行うことを目的に、令和2年度に設置した委員会を引き続き行います。記念事業の内容は、「鉄道遺産を生かしたまちづくり」展示や横浜市とのセミナー等の開催、さらに横浜市内、神奈川県等に息づく鉄道遺産を紹介する「鉄道遺産調査報告書」の作成。

(4) 会員事業

〈自主事業〉

- ① 会報誌『ヨコハマヘリテイジスタイル』を年4回発行
- ② ホームページの充実

(5) 「歴史を生かしたまちづくり相談室」の運営

横浜市内や神奈川県内等には数多くの歴史的建造物等の、老朽化、居住性の低下、修理費、固定資産税や相続税などが障害となり、保全活用を行いたくても出来ない方が多くおられます。そうした方々の様々な相談に対応し、調査、保全の提案、修理、住まい手紹介、取得等の有効な手当を行うことが必要とされていることから、平成26年に開設した相談室の運営に力を注ぎます。

(6) 公益社団法人横浜歴史資産調査会設立10周年記念事業の開催

〈自主事業〉

平成21年6月2日に横浜市都市デザイン室内の横浜市歴史的資産調査会から神奈川県認定の一般社団法人横浜歴史資産調査会(通称:ヨコハマヘリテイジ)へ。さらに、平成25年4月1日には内閣府認定の公益社団法人格を取得し、本年で法人として活動を開始してから13年目を迎えます。この節目に「歴史を生かしたまちづくり」を将来に亘り、積極的に推進して参る覚悟で設立10周年記念事業を行います。*令和元年度開催予定を延期したものと

旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催。再建計画、事業計画等をまとめ事業を推進中です。再建費用は、皆様のご寄付と日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の残金で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。心よりお礼申し上げます。

再建事業は推進中ですが非破壊検査の結果、焼損したモーガン邸の基礎を再利用できることが判明し、大規模改修での再建の目的が立ちました。基礎調査費は、NPO旧モーガン邸を守る会からのご寄付で賄いました。2024年度からの再建をめざします。引き続き皆様のご寄付をお願いいたします(常務理事 米山淳一)

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)

一口から何口でもありたくお受けいたします。ご寄付頂いたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲示させていただきます。

*当公益社団への寄付は、税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。詳しくは事務局からご案内しますので、お問合せ下さい。

振込先: ゆうちょ銀行

口座番号: 00270-4-124271

加入者名: 公益社団法人 横浜歴史資産調査会

*恐縮ですが、旧モーガン邸と明記してください

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。

インヅカサヤカ 5,000	乗山直子 5,000
轉 恵子 5,000	田中彰一 5,000
浅原清作 10,000	坂本由加子 5,000
登り窯と永田の自然を守る会 30,000	轉 恵子 5,000
熊谷秋雄 50,000	藤川昌樹 5,000
有限会社熊谷産業 100,000	酒井浩次 5,000
NPO旧モーガン邸を守る会 737,000	小川文雄 5,000
徳田裕二 2,000	安川千秋 5,000
川手光太 5,000	山崎哲也 5,000
堀本 誠 34,000,000	原喜一郎 10,000
青木伸廣 5,000	菅 孝能 10,000
大野 敏 30,000	小沢 朗 5,000
西山 徹 5,000	佐藤里紗 5,000
児玉達朗 5,000	大原竜太 10,000
国生克彦 10,000	小林守利 5,000
浜田美子 10,000	後藤 勇 後藤さや香 10,000
田中和子 15,000	島田浩和 5,000
三田村和枝 30,000	鈴木正三 20,000
大久保洋子 10,000	高橋志保彦 5,000
遠山綾夏 5,000	

(敬称略。単位円。2022年3月1日~2022年6月30日現在)

2022年10月14日 新橋－横浜鉄道開業150周年

古賀 学

連載 第6回

鉄道開業150周年記念事業委員会委員長
公益社団法人横浜歴史資産調査会理事
松蔭大学観光メディア文化学部教授、NPO 法人
観光文化研究所理事長



あたり前だが、明治5年の出来事はすべて150周年を迎える。その1つが鉄道開業である。明治5年は、大陰暦が廃止され太陽暦に移行、愛知県、埼玉県、宮城県など県政誕生も150周年、東京城が皇居と治定され京都行きは還幸ではなく行幸となったそう。赤坂離宮や新宿御苑の前身が設置され、全国に郵便が施行され、ラムネの製造が許可に。そして、横浜に日本初のガス灯が灯ったのも明治5年。因みに明治6年は、鉄道では新橋・横浜間で貨物輸送が開始された。来年は貨物開業150周年となる。

150周年の意味を改めて問うと、人はなぜ誕生日を祝うのかというところに行き着く。誕生日を祝うのは2つの形がある。生きている誕生の証として誕生を祝う、また生きていた証として生誕を祝う。鉄道150周年は誕生祝なのか生誕祝なのか。

鉄道開業150周年で光るところは、まずは“初”というところにある。初はそれが誕生するまでの大変な努力が伴うものである。大隈重信らの政策や反対を説き伏せての強行、鉄道の選択と技術、路線空間等々その努力には余りあるものがあつたであろう。人は生まれた時が出发点であるが、“もの”は人との関わり合いとともに過去に遡ることにより意味を持つ。そうした想いを持って今に残された遺構をみることによりその重みはさらに増す。遺構は生きている。“もの”は、遺構であろうと遺産であろうと残っている限りは誕生日なのである。

はるか昔、ロスアンゼルスからサンフランシスコまで鉄道の旅をした。一日1本の列車が1時間遅れで出発したのにムカついたり、豪華な椅子や自販機専用の車両で購入したハンバーガーを専任乗務員がレンジで温めてくれたのに感動したり、牧場や海の夕日の車窓に堪能した旅であった。数えてみると今年が50周年であった。丁度良い数字を見つけると何となく気持ちいい。何はともあれお祭りは賑やかなほど楽しい。150年前の前後左右を見渡すとよい。化粧して着飾ってガス灯に見送られてラムネを飲みながら車窓に耽る、そんな誕生日を皆して祝福しようではありませんか。

鉄道開業150周年 記念事業

鉄道開業150周年記念委員会が中心となり、日本鉄道保存協会、横浜市都市整備局、全国近代化遺産連絡協議会と連携し、下記の事業をおこないます。

- 全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会フォーラム
8月30日(火)～9月16日(金) 展示「私たちのまちの鉄道遺産」/
会場：横浜みなと博物館特別展示室
- 9月15日(木) フォーラム/会場：横浜みなと博物館会議室
- 日本鉄道保存協会総会・見学会・フォーラム
9月16日(金) 見学会/横浜市内
9月17日(土) 総会・フォーラム/会場：横浜みなと博物館会議室
- 鉄道遺産調査報告書
横浜市および神奈川県内の鉄道遺産調査を実施し、調査結果をまとめた報告書「鉄道の記憶 横浜・神奈川編」を作成、配布
- 第44回歴史を生かしたまちづくりセミナー
9月18日(日)/会場：横浜みなと博物館会議室 要申込み



1号ドック日本丸も国指定重要文化財。隣接して横浜みなと博物館が右手にある

● 新任監事紹介

西脇敏夫氏

都市デザイナー・元横浜市都市デザイン室長

1939年東京生まれ。早稲田大学大学院建築計画修士。



受付中!

■ 歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテージ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■ 歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■ 『ヨコハマヘリテージスタイル 2022年夏号』

■ 発行/2022年7月31日 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■ 事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp>